

深刻な子供の貧困問題

◆ 子供の貧困～7人に1人の子供が貧困状態～

日本における子供の貧困率は13.5%と、7人に1人の子供が当たり前の生活を営めない「貧困状態」にあります。貧困は、経済的な困窮だけでなく、「人とのつながり」や「教育・体験の機会」などを奪い、人生の選択肢を狭めてしまいます。さらに、貧困状態が続くと親から子へと貧困が連鎖します。

◆ 「子供の居場所」の可能性

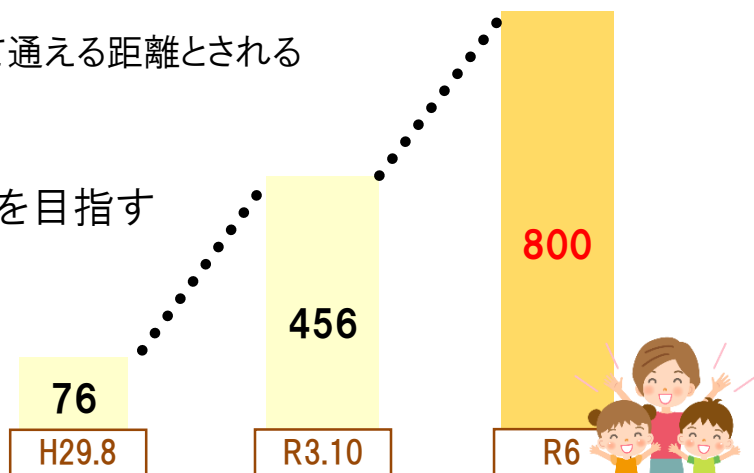
こうした中、民間主導の取組である子ども食堂、学習支援、プレーパーク、多世代交流拠点などの「子供の居場所」が多様な形で広がっています。栄養状態の改善、孤食の解消、多様な学び、自己肯定感の向上など、社会全体で子供を育てる拠点として、様々な可能性を秘めています。

全ての子供が生まれ育った環境に左右されず同じスタートラインに立てる社会を目指し、埼玉県では、子供の居場所の支援を行っています。

埼玉県の子供の居場所数

子供が安全に歩いて通える距離とされる
小学校区の数と同じ

800か所を目指す



子供の居場所の多様な役割

- ◆ 栄養状態の改善・食育
- ◆ 孤食の解消
- ◆ 自己肯定感の向上
- ◆ 学力格差解消
- ◆ 大人への信頼を得る
- ◆ 様々な体験機会
- ◆ ロールモデルとの出会い
- ◆ 生活習慣を身に着ける
- ◆ シニアの生きがいづくり
- ◆ 地域の交流拠点
- ◆ 地域コミュニティの再生拠点 etc...

子供の居場所づくり支援事業

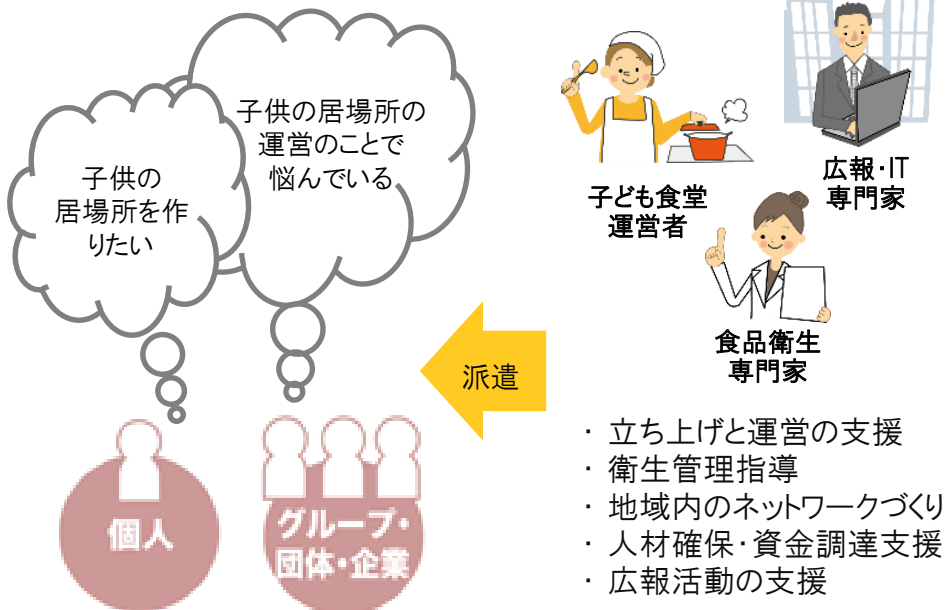
事業目的

子供の居場所活動を推進するため、子供の居場所の立ち上げや継続的な活動を支援する。
また、すべての子供たちが夢と希望を持てるよう、EQ向上を図る。

事業内容

こどもの居場所づくりアドバイザー派遣

46の個人・団体をアドバイザーとして任命し、派遣することで、
子供の居場所の立ち上げ・継続的な活動を支援



子供のEQ向上のための支援員派遣

子供の居場所における学習支援や体験活動を支援



サッカー体験



学習支援



国際交流体験



消防体験

etc...